研究業績

超高令患者の健康調査（第一報）

医療法人新川病院　越山　健二，木曽　峯子(旧)
高本　富子，平井　美枝

1．はじめに

新川病院に入院加療中の老令患者約150名のうち85才以上の超高令患者は昭和60年5月の時点で20名である。その人たちを対象として身体的及び精神的な面からの調査を行い，又一部の生化学的検査成績をまとめてみた。

2．調査対象

対象となった85才以上の高令者は男6名女14名，計20名である。入院の動機となったのは，脳梗塞や脳血栓等循環器障害によるものが大部を占め，パーキンソン病，冠不全，リユマチ等によるもののほか老化衰弱し，寝たきりとなった者である。

3．調査成績

身長，体重等表示の如く退行性萎縮が強く全般に矮小である。入院期間は4～5年を経過したものが多い。日常生活動作（ＡＤＬ）に支障があり，歩行可能は2名のみで18名は介助又は不能である。摂食可能な者も少なく，排泄は全例がおむつ使用，入浴は18名が全面介助である。体位交換可能は4名でその他は殆んど寝たきりの状態で2名に強度の難聴があり，視力の衰えもあるが盲はいない。歯牙は19名が欠損し1名が義歯で，咀嚼障害があり，全例が粥食又は流動食を摂取している。長谷川式ＤＲスケールで10以上ある者は2名で他は10以下でその多くは0で応答の気力のない者又は検査に協力する意慾を欠くものである。日時や生年月日の記銘する者も少なく，テレビ，ラジオ等に関心を持つ者は1名にすぎず，積極的に発語し会話が可能なものは数名である。意識も時により混乱，昏迷の状態であるが家族や知人の識別は保たれている。著明な感情失調はないが燥，うつの症状を呈するときもあり，女子3名に夜間せん妄の病態もある。平凡で長期間の介助による入院生活から依存傾向が強くなり，自己中心で患者相互の交流も殆んどみられないが感謝の気持があり，礼儀や思いやりの感情が残されているようである。それは眼や顔の表情や僅かな体の仕草によって推察するのである。

4．生化学的検査成績

20名の生化学的検査成績は表に示す如く血液，肝機能，腎機能，電解質等について調査を行い，入院時と現在（昭和60年5月）とを比較した。

血液検査の白血球数については正常が男2/6名，女 6/14名，増加がそれぞれ男 2/6名，女 2/14名，減少するもの男 2/6名，女 6/14名であり，増減の巾は少ないようである。赤血球数及びヘモグロビン値では正常値は男でそれぞれ 4/6 名，女でそれぞれ 6/14名であり，低値を示すもの男 2/6名，女 8/14名で貧血傾向を示す事が注目される。この事は血清蛋白にも認められ，男 4/6名，女 10/14名に低蛋白を認めた。

肝機能はＧＯＴ，ＧＰＴ，Al-p，γGTP について調査したが，表示の如く異常値と思われる者はなかった。

超　高　令　者

	性別	年令	既往歴	病名	入院期間	ABO方式血液型	IQ		体位			貧血						ZTT	
							初回	現在	身長	体重		白血球		赤血球		ヘモグロビン		初回	現在
					初回				現在	初回	現在	初回	現在	初回	現在	初回	現在		
K.S	男	85	脳卒中	脳卒中	5年6ケ月	A	21.5	9	158.0	40.5	34.5	9,500	6,400	418	419	13.7	12.2		
M.I	男	85	喘息	脳卒中	6年	A	18.5	17.5	150.0	47.5	50.0	7,200	7,300	397	431	11.2	12.0		
T.WH	男	88		脳血栓	6年3ケ月	A	4	9.5	155.0	38.5	34.5	3,700	3,500	387	380	12.3	12.2		
M.T	男	87	糖尿病	糖尿病	2年	O	2	2	159.0	61.0	47.0	8,700	5,700	439	390	14.6	12.5		
T.K	男	89	胃潰瘍 膀胱結石	喘息 慢性胃炎	5年	O	2	2	158.0	46.0	49.0	5,800	7,200	355	342	12.0	9.8		
Y.M	男	90	前立腺肥大	パーキンソン氏病 胃不全	3年6ケ月	B	0	0	162.0	57.0	55.0	4,400	4,700	319	254	10.9	9.0	20.6	24.9
K.T	女	85	高血圧症	脳血栓	1年	A	0	0	156.0	48.0	46.0	7,800	8,700	530	430	16.1	13.4	17.2	12.0
K.F	女	85	顔面神経麻痺	脳血栓	2年10ケ月	A	0	0	136.0	30.5	27.5	4,600	5,700	314	322	10.5	10.5	6.3	
H.K	女	85	肺炎 高血圧症	高血圧 冠不全	7年	O	12.5	14.5	141.0	37.0	38.5	4,300	5,200	419	415	12.2	12.5	6.0	
T.Y	女	86	脳血栓	多発性ロイマチス 脳血栓	4年	A	10.5	7.5	145.0	35.5	37.5	4,700	5,500	382	372	12.4	12.2		
K.S	女	86	高血圧症	冠不全 高血圧症	4年	A	3	0	141.0	34.5	29.5	5,800	4,200	429	323	14.3	10.7		
M.S	女	88	肋膜炎 子宮結石	子宮内結石 脳血栓	3年	B	9	5.5	142.0	33.5	31.0	8,800	7,500	310	400	9.2	12.2		
S.Y	女	88	脳卒中 皮膚癌	気管支肺炎 脳卒中	5年6ケ月	B	12	0	153.0	37.0	34.5	5,200	3,900	328	330	10.4	9.9		
T.T	女	88		心筋梗塞 脳血栓	2年3ケ月	A	1.0	0	147.0	37.5	34.5	6,000	5,700	334	355	10.4	10.7		14.0
H.M	女	89		慢性気管支炎 脳血栓	3年10ケ月	B	0	0	143.0	37.0	37.5	7,100	5,500	457	433	13.4	12.8		
T.Y	女	88	胃潰瘍	冠不全 慢性膀胱炎	6年	O	8.5	7.5	142.0	41.0	35.0	4,600	4,400	316	323	10.5	70.2		
K.A	女	90	高血圧症	脳卒中 心臓瘤膜症	2年4ケ月	A	0	0	141.0	37.0	35.5	6,000	5,100	325	330	11.6	10.4		
S.K	女	91	脳出血	冠不全 脳卒中	5年	O	0	0	130.0	32.5	35.0	7,000	4,700	436	392	13.9	12.5		
T.S	女	92	虫垂炎	喘息 糖尿病	3年6ケ月	O	0	0	148.0	43.0	4,300	4,300	5,600	387	372	11.8	11.4		
T.N	女	93		両下肢神経痛 冠不全	4年	B	4.5	45	143.0	41.5	36.0	5,200	6,500	387	390	11.2	11.2		
正常値												4,000 ～8,500		M400～530 F380～480		M14～18 F12～16		4.0～12.0	

健　康　調　査　(85才以上)

昭和60．5．現在

肝機能								腎機能											
GOT		GPT		Al－P		r－GTP		総蛋白		尿素窒素		尿酸		クレアチニン		Na		K	
初回	現在	初回	現在	初回	現在	初回	現在	初回	現在	初回	現在	初回	現在	初回	現在	初回	現在	初回	現在
15	16	8	8	5.8	4.7			6.0	6.1	21.0	15.2	3.1	4.4	1.03	0.7	145	138	4.1	3.8
16	16	15	9	7.3	7.7			6.3	6.9	14.9	15.4	2.8	4.2	1.1	1.5	143	145	4.3	3.8
22	20	10	11	4.4	4.9			5.9	5.9	20.4	14.6	3.3	3.5	0.3	0.8	140	142	3.9	3.2
12	19	8	9	6.0	5.4			6.7	6.6	20.7	17.9	3.8	3.5	1.2	0.6	144	142	3.5	3.3
21	19	10	8	8.3	7.0			6.1	5.9	19.0	27.4	8.1	4.6	1.0	0.8	138	137	4.6	4.6
43	39	21	15	8.5	6.2		28	7.1	6.3	33.5	24.3	6.1	5.0	1.6	1.1	139	136	4.1	4.1
27	36	11	16	5.6	5.7	10.0	39.0	6.3	5.1	22.3	6.1	3.7	5.0	0.9	0.9	130	137	3.9	2.9
11	26	6	28	9.4	4.7	9.4	4.7	6.0	5.5	17.7	14.6	3.0	2.4	1.1	0.7	146	145	4.0	3.8
39	13	37	8	15.6	4.5			6.4	5.9	14.0	24.3	2.7	3.4	1.22	1.3	143	141	3.1	3.1
21	21	9	10	7.1	5.0	13.0		6.3	6.5	9.0	21.7	3.4	3.5	0.66	0.8	144	144	3.7	3.3
23	15	10	9	5.7	7.6	7.0		7.6	6.7	19.0	22.3	3.4	4.0	0.75	0.7	137	146	4.6	3.7
21	26	8	8	10.1	10.5			6.1	5.0	16.8	6.5	3.6	2.7	0.8	0.8	140	135	4.0	4.2
14	27	9	15	12.9	23.7			6.3	6.0	18.0	25.7	4.3	3.5	0.95	0.9	142	136	4.1	4.1
5.3	16	18	8	7.6	8.8		33.0	7.7	7.1	17.0	18.4	17.0	3.5	1.0	1.0	140	143	5.0	3.8
17	17	12	8	7.9	12.5	5.0		7.3	7.2	8.0	10.3	6.5	4.0	0.74	0.6	143	143	4.0	4.3
16	14	12	8	11.9	7.3			6.0	5.7	15.0	14.1	3.3	2.5	0.68	0.8	145	144	3.9	3.9
23	24	18	22	3.6	3.7			5.8	5.6	18.4	22.8	6.3	5.9	0.7	0.7	97	144	3.5	3.9
19	12	11	8	5.4	5.4	9.0		7.5	6.7	21.0	22.4	1.3	4.8	0.82	0.9	144	140	4.0	4.1
16	16	5	8	7.4	3.3	8.0	7.0	5.7	5.7	20.3	16.7	4.2	3.1	0.9	0.9	144	141	5.0	3.3
18	36	9	20	14.4	17.9	13.0		5.7	6.1	27.0	14.9	3.8	3.6	1.14	0.9	143	143	4.2	4.3
10～40		8～30		2.7～10.0		60.0以下		6.5～8.2		8.0～20.0		M3.5～7.9 F2.6～6.0		0.8～1.5		137～147		3.5～5.5	

腎機能は尿素窒素，尿酸，クレアチニンについてみると尿素窒素で異常値を示す者もあるが，その変動幅は僅少であり，高値を示す者は少ない。

電解質では，Na は異常者はなく，Kでは女4名に低カリウム血症を認めた。

ちなみに血液型ではＡＢ型の者はいなかった。

おわりに

寿命の延長と共に超高令者の入院患者も増加してきた。この人たちは明治，大正，昭和の厳しい生活環境の中で生き抜き体質的にもめぐまれた人たちである。その病態について身体的，精神的且つ一部血液の生化学的検査結果について調査した。超高令患者の血液検査で貧血傾向が認められるが肝機能異常を呈するものはなく，腎機能については全般に軽度の機能の低下を認めるも高価を示すものは少ない。電解質では低カリウムが目立った。

注目したいのは精神的な心情ともいふべきものである。衰えた身体的機能の低下から親しんできた家族や友人，知人との離別で精神のおちこみがあり，脳の老化も加わり無感動，無気力の様相を呈しているように思われる。一部には新生児のねむりにも似た終日とろとろとまどろむ状態にもある。死に対する恐怖もあるようであるが持続する事はなく心身の苦悩に対する訴も知覚の鈍感もあってか意外に少ないようである。

今回の調査は限られた極く一部のもので検討，考擦もざっぱくである。昭和60年５月から更に２年を経過した62年５月現在，新たに10名の超高令者が入院しており，継続して調査を行いたいと思っている。

文　　献

1）川嶋賢司：老化に関する衛生学的研究，日農医誌，32，5，昭59.

2）塩飽邦憲ほか：農山村地域における在宅寝たきり老人の終年的健康実態調査，日農医誌，32，5，昭59.

3）Schettler 著：老人病学，文光堂，昭53.